

本政友会

八重山一ノ丸
二ノ丸

一ノ丸
二ノ丸
三ノ丸



C2
4
04

東
通
特30
15

審
官
壹
號
通
改
定
候
條
此
旨
布
告
候
事

年八月第二十九十六號布告文部省官等表中督學局官等左表ノ

明治八年六月八日

太政大臣三條實美

督學局官等改正表

大督學	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等	十二等	十三等
中督學											
少督學											
	大視學	中視學	少視學								
	大書記	中書記	少書記								

第百貳號

明治六年^{六月}第百九拾五號布告金穀貸借請人証人辨償規則本年十月一日ヨリ左ノ通改正施行候條此旨布告候事

明治八年六月八日

太政大臣三條實美

金穀貸借請人証人辨償規則

第一條

金銀借用返濟相滞リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ^{請人}分^{証人}ハ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其^{請人}証人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハ^{請人}借主並ニ^{証人}ハ勿論其相續人ニ至ルマ

テ身代持直シ次第皆濟可致事

第二條

借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人証人へ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハ、請人証人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事

第三條

身代限申付候上不足相立身代持直次第皆濟可致旨別紙雛形ノ通裁判所ニ於テ其原証文ノ裏へ記シ押印ノ上貸主へ可相渡置事

裏書雛形

第一條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓相滯ルニ付借主何ノ誰身代限申付ル處不

足相立請人証人何ノ誰ヲモ身代限ヲ以テ辨償爲致都合金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百何拾圓ハ借主何ノ誰請人証人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日

某裁判所印

第二條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓借主何ノ誰失踪死去跡相續人無之ニ付請人証人何ノ誰へ身代限ヲ以テ辨償申付ル處金何百何拾圓ニ相成ニ付右受取殘リ何百何拾圓ハ請人証人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致モノ也

年月日

某裁判所印

第百三號

今般裁判事務心得左ノ通相定候條此旨布告候事

明治八年六月八日

太政大臣三條實美

第一條

一各裁判所ハ民事刑事共法律ニ從ヒ遲滯ナク裁判スヘシ疑難アル
ヲ以テ裁判ヲ中止シテ上等ナル裁判所ニ伺出ルコトヲ得ス但シ刑
事死罪終身懲役ハ此例ニアラス

第二條

一凡ソ裁判ニ服セサル旨申立ル者アル時ハ其裁判所ニテ辨解ヲ爲

スヘカラス定規ニ依リ期限内ニ控訴若クハ上告スヘキコトヲ言渡
スヘシ

第三條

一 民事ノ裁判ニ成文ノ法律ナキモノハ習慣ニ依リ習慣ナキモノハ
條理ヲ推考シテ裁判スヘシ

第四條

一 裁判官ノ裁判シタル言渡ヲ以テ將來ニ例行スル一般ノ定規トス
ルコトヲ得ス

第五條

一 頒布セル布告布達ヲ除クノ外諸官省隨時事ニ就テノ指令ハ將來
裁判所ノ準據スヘキ一般ノ定規トスルコトヲ得ス

第四百號

郵便切手各種并ハカキ封皮印面之イロハ文字自今删除候條此旨布
告候事

但當分従前ノ品取交相用不苦候事

明治八年六月十二日

太政大臣三條實美

第百五號

本年^{二月}第三拾貳號布告蠶種製造組合條例第八條第三節中蠶種印紙
稅左ノ通改正候條此旨布告候事

明治八年六月十三日

太政大臣三條實美

第八條

第三節

全紙へ貼用ノ分

淡墨
色 印紙壹枚ニ付

金六錢

分裁紙へ貼用ノ分

黃色 印紙壹枚ニ付

金壹錢五厘

但 從前ノ通

第百六號

明治七年十月第百四號布告左ノ通改正候條此旨布告候事

明治八年六月十八日

太政大臣三條實美

地所賣買致シ候節代金受取ノ証文有之共地券申受ケサレハ買主
ニ其地所所有ノ權無之候條規則ノ通地券書替可申請事

第百七號

家祿賞典祿事故アリテ沒收又ハ終身祿ノ者死亡等ニ付收祿ノ節其年經過スル月數ニ應シ給祿渡方ノ儀ハ前年ノ貢納相場ヲ以テ其都度石代ニテ支給候條月割十五日前後ヲ以渡方取調甲ノ月收祿セシモノハ乙ノ月限リ請取方其管廳ヨリ大藏省ヘ可申出此旨布告候事但祿稅ノ儀ニ付明治七年^五第五十五號ヲ以テ金給ノ分トモ其貢納相場相用ヒ可申旨布告候處本文收祿ニ付給與ノ祿高稅納ニ限リ金給ノ分トモ自今前年貢納相場相用ヒ其都度石代ヲ以取立上納可致事

明治八年六月十八日

太政大臣三條實美

第百八號

新貨條例ノ儀明治五年^{月五}頒布ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則例
目ノ刪補等有之候ニ付本年^{月四}第六拾貳號布告但書ノ通今般改刻更
ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事

但明治六年^{月八}第三百八號布告銅貨圖面同七年^{月三}第三拾四號布告
壹圓銀圖面本年^{月二}第三拾五號布告貿易銀圖面共表裏ノ唱へ反對
イタシ居候ニ付今般改正候事

明治八年六月廿五日

太政大臣三條實美

第百九號

明治七年^{六月}第六十二號布告亞米利加合衆國ト郵便交換條約第三條
中第四節第五節左ノ通改定相成候條此旨布告候事

明治八年六月廿五日

太政大臣三條實美

帝國日本ト亞米利加合衆國トノ兩國間ニ郵便ヲ以テ交通スル新
聞紙及諸般刷印モノ其他商品ノ見本雛形ハ到着地迄ノ郵便稅ヲ
悉皆前拂ニセン爲メ兩國間ニ約スル所ノ條約
下ニ載名スル兩員ハ各其政府ノ命ヲ奉シ一千八百七十三年八月
六日即明治六年八月六日華盛頓府ニ於テ亞米利加合衆國ト帝國

日本トノ間ニ取結ヒタル郵便互換條約第三條中第四節第五節ヲ
左ノ如ク改定スルコトヲ締約ス乃チ

各新聞紙ノ重量四ヲンスニ過ギザルモノハ四セント諸般ノ刷印
モノ其他商品ノ見本雛形ノ重量ニヲンス若クハ其分數每ニ四セ
ント
或ハ四ヲ到着地届先迄ノ郵便稅トシテ發出地ノ郵便局ニ於テ之ヲ
收入スベシ

此條約ハ明治八年七月一日ヨリ實際施行シ同日ヨリ郵便互換條
約第三條中第四節第五節ヲ廢スベシ

一千八百七十五年四月二十六日華盛頓府ニ於テ二通ニ認メ署名
スルモノナリ

在米日本天皇陛下ノ特命全權公使

吉田 清成

米國驛遞總長

マルシヤルゼウエル

余此條約ヲ證認シ其證トシテ米國ノ印章ヲ鈐スルモノナ
リ

ユ一、エス、グラント

奉命

國務卿ハミルトンファイシ

華盛頓府一千八百七十五年四月廿七日

朕此條約ヲ定證セン爲メ茲ニ大日本國ノ印章ヲ鈐ス

明治八年六月十五日

御名

御璽

奉勅 外務卿寺島宗則

第百拾號

讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

明治八年六月廿八日

太政大臣三條實美

讒謗律

第一條

凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非スノ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示ノ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條別ニ從テ罪ヲ科ス

第二條

第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ渉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五十圓以上千圓以下

二罰并セ科シ或ハ偏ヘニ
一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ

第三條

皇族ヲ犯ヌニ渉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓以上七
百圓以下

第四條

官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上
五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百圓
以下

第五條

華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下
罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條

法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ証スル者ハ第一
條ノ例ニアラス其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條

若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若ク
ハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ム
ルコトヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ候テ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ
罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レズノ單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後官
ニ告發スト雖モ仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條

凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ

乃
乎
論
ス

第百拾壹號

明治六年十月第三百五拾貳號ヲ以テ布告候新聞紙條目被廢更ニ別冊
ノ通被定候條此旨布告候事

明治八年六月廿八日

太政大臣三條實美

新聞紙條例

第一條

凡ツ新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌雜報ヲ發行セントスル者ハ持主
若クハ社主ヨリ其ノ府縣廳ヲ經由シテ願書ヲ内務省ニ捧ケ允准ヲ得
ベシ允准ヲ得ズシテ發行スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ凡ツ條例ニ違フ
者ハ府縣廳ヨリ
地方ノ法司ニ發行ヲ禁止シ持主若クハ社主及編輯人印刷人各々罰金
百圓ヲ科ス其ノ詐テ官准ノ名ヲ冒ス者ハ各々罰金百圓以上二百圓以
下ヲ科シ更ニ印刷器ヲ沒入ス

第二條

願書ニ擧クヘキノ目左ノ如シ

- 一 紙若クハ書ノ題號
- 二 刷行ノ定期毎日毎週毎月或ハ無定期ノ類
- 三 持主ノ姓名住所○會社ナレハ差金人ヲ除クノ外社主一人若クハ數人ノ姓名住所
- 四 編輯人ノ姓名住所○編輯人數人アル者ハ編輯人長一人ノ姓名住所
- 五 印刷人ノ姓名住所○編輯人自ラ印刷人ヲ兼ル者ハ其由ヲ著ス右ノ五目中詐謬アル者ハ發行ヲ禁止若クハ停止シ時日ヲ限リ發行ヲ止ムル者ヲ停止トス仍ホ願人ニ向テ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三條

編輯人若クハ編輯人長退任シ若クハ死去スル時ハ假ニ編輯人若クハ

編輯人長ヲ定メ刷行スルヲ得但シ遲クモ十五日内ニ退任死去ノ翌日ヨリ起算ス

新定セル編輯人若クハ編輯人長ノ姓名住所ヲ持主若クハ社主ヨリ其府縣廳ニ届ケ出ヘシ若シ期限内ニ届ケ出サル時ハ發行ヲ停止シ持主若クハ社主罰金百圓ヲ科ス

其他第二條願書ニ載スヘキノ目ニ於テ一ノ變更アル時ハ遲クモ十五日内ニ持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長ノ連名ヲ以テ届ケ出ヘシ若シ期限内ニ届ケ出サル時ハ持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長各々罰金百圓ヲ科ス

第四條

持主若クハ社主及編輯人若クハ假ノ編輯人タル者ハ内國人ニ限ルヘ

シ

第五條

持主若クハ社主、自ラ編輯人若クハ編輯人長タルヲ得

第六條

編輯人二人以上アル者ハ、其一人ヲ撰テ編輯人長トスベシ
每紙每卷ノ尾ニ、編輯人印刷人各ヲ署シ、編輯人數人アル者ハ、編輯人長、名ヲ署シ、編輯人若クハ編輯人長、疾病事故アル時ハ、代理人ヲ定メ、其名ヲ署スヘシ、若シ名ヲ署セザル時ハ、編輯人若クハ編輯人長、若クハ代理人罰金百圓以上五百圓以下ヲ科シ、印刷人罰金百圓ヲ科ス
紙中若クハ卷中載スル所ノ事ニ付テハ、紙尾署名ノ編輯人若クハ編輯人長一切責ニ任スベシ

第七條

紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル時ハ、編輯人首ヲ以テ論シ、筆者ハ從ヲ以テ論ス、持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ、編輯署名ノ人ト同ク論ス

第八條

新聞紙及雜誌雜報ノ筆者ハ、投書者ハ筆者ヲ以テ例ス尋常ノ瑣事ヲ除クノ外、凡ソ内外國事、理財、人情、時態、學術、法教、議論及事、官民ノ權利ニ係ル者ハ、皆其ノ姓名住所ヲ著スヘシ

筆者變名ヲ用ヒタル時ハ、禁獄三十日罰金十圓ヲ科ス、他人ノ名ヲ假托スル者ハ、禁獄七十日罰金二十圓ヲ科ス、二罰并セ科シ或ハ偏ヘニ一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ

第九條

外國新聞紙及雜誌雜報ヲ翻譯ノ記入スル者ハ、尋常ノ瑣事ヲ除クノ外

譯者名ヲ署シ、其事第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル時ハ譯者其責ニ任スヘキヲ第七條筆者從テ以テ論スルノ例ニ依ル

第十條

事犯編輯人ニ止リ、禁獄ヲ命シタル時ハ、特ニ發行ヲ停止シタル時ヲ除クノ外、持主若クハ社主ヨリ、假ニ編輯人ヲ定メ、若クハ新タニ編輯人ヲ定メテ仍ホ發行スルコトヲ得、其ノ編輯人ヲ定メスシテ發行スル者ハ、發行ヲ停止スヘシ

第十一條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ指名サレタル官署會社、若クハ人民ヨリ、辨白書、若クハ改正ヲ求ムルノ書ヲ寄スルキハ、其書ヲ受取リシヨリ直チニ其次號ニ刷出スヘシ違フ者ハ編輯人罰金十圓以上百圓以下ヲ科

ス

第十二條

新聞紙若クハ雜誌雜報ニ於テ人ヲ教唆ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ犯ス者ト同罪、其教唆ニ止マル者ハ禁獄五日以上三年以下罰金十圓以上五百圓以下ヲ科ス
其教唆シテ兇衆ヲ煽起シ或ハ官ニ強逼セシメタル者ハ犯ス者ノ首ト同ク論ス、其教唆ニ止マル者ハ罪前ニ同シ

第十三條

政府ヲ變壞シ國家ヲ顛覆スルノ論ヲ載セ騷亂ヲ煽起セントスル者ハ禁獄一年以上三年ニ至ル迄ヲ科ス、其實犯ニ至ル者ハ首犯ト同ク論ス

第十四條

成法ヲ誹毀ノ國民法ニ遵フノ義ヲ亂リ及顯ハニ刑律ニ觸レタルノ罪
犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ禁獄一月以上一年以下罰金五圓以上百
圓以下ヲ科ス

第十五條

裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セザル者ヲ載スルコトヲ得ズ及
裁判官審判ノ議事ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ禁獄一月以上一年以下
罰金百圓以上五百圓以下ヲ科ス

第十六條

院省使廳ノ許可ヲ經ズシテ上書建白ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前
條ニ同シ

附則

此ノ條例布告ノ前ニ己ニ允准ヲ得テ發行セル新聞紙雜誌雜報ハ新タ
ニ願書ヲ捧クルニ及ハス但シ府縣廳ヲ經由ノ內務省ニ届クル爲ニ此
ノ布告ヲ承ルヨリ第十日迄ニ^{布告ヲ承ルノ翌日ヨリ起算ス}府縣廳ニ向テ第二條五
目ノ届書ヲ捧クヘシ第十日ヲ過テ届書ヲ捧ケザル者ハ府縣廳ヨリ發
行ヲ止ムベシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ第一條ニ依ルヘシ
從前編輯人數人アリテ編輯人長ナキ者ハ條例布告ヲ承ルヨリ第二日
迄ニ^{布告ヲ承ルノ翌日ヨリ起算ス}編輯人長ヲ定メ若クハ假ニ定ムヘシ第二日ヲ過
テ刷行シタル紙若クハ書ニ編輯人長ノ署名ナキハ府縣廳ヨリ發行
ヲ止ムベシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ前ニ同シ

第百拾貳號

文部省管理衛生准刻二項ノ事務内務省へ管理被 仰付候條右ニ關
スル願伺等ハ從前規則ノ通相心得自今内務省へ可差出此旨布告候
事

明治八年六月廿八日

太政大臣三條實美

第百拾三號

改定律例第四條左ノ通増加候條此旨布告候事

明治八年六月廿九日

太政大臣三條實美

第四條 增加

凡上告シテ破毀ヲ得タル罪犯其懲役ノ年日數ハ原裁判言渡ノ日ヨリ起算シ獄舍勾置若クハ便宜監護ノ日數モ懲役限内ニ算入ス勾置監護ノ日數本罪ニ過ル者ハ直ニ放免ス其上告ノ不當ナル者ハ裁判言渡ヨリ上告ニ至ル迄ノ時間及ヒ勾置監護ノ日數ヲ限内ニ算入スルコトヲ得ス若シ檢事ノ上告ニ係レハ不當ナル者ト雖モ仍ホ限内ニ

算入ス

第百拾四號

明治七年^{十一月}第百貳拾號布告地所名稱區別ノ内官有地第二種及ヒ
民有地第三種ノ條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治八年七月二日

太政大臣三條實美

官有地

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法ト
ス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入
ス

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦ス

民有地

第三種 地券ヲ發シテ地租區入費ヲ賦セサルヲ法トス

一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云

第百拾五號

明治五年^{十一月}第三百三拾號布告牛馬賣買規則中第四條但書左ノ通
改正候條來明治九年ヨリ施行可致此旨布告候事

明治八年七月七日

太政大臣三條實美

牛馬賣買規則

第四條

一 免許鑑札云々

但右税金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立租稅寮へ
上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事

五種ノ株式證券ノ指入者ハ其指入後直ニ類ノ証券ヲ發行シ
指入者金ノ額中ニ其入者額ニ準テ各指入者ノ指入額ノ比
一、或指入者ニ

明治七年十月廿八日

太政大臣三條實美

第五種證券指入者ノ指入額中ニ其指入者ノ指入額ノ比
即正平十一、或指入者ノ指入額中ニ其指入者ノ指入額ノ比
發行指入者

第百拾六號

明治七年^{十月}第百七號ヲ以テ株式取引及ヒ同年^{十二月}第百三拾八號ヲ
以テ米穀賣買相場取引等致度者ハ其管轄廳ヲ經テ大藏省へ可願出
旨及布告置候處自今右ノ手續ヲ以テ内務省へ可願出此旨布告候事
但株式取引條例中第貳拾九條ヲ除ノ外大藏卿トアルハ内務卿國
債頭トアルハ勸業頭ト可心得事

明治八年七月十四日

太政大臣三條實美

第百拾七號
本年五月第九拾五號布告改正新舊公債証書發行條例中第四條第壹節
金額內譯合計表差出方每年十月三十一日ヲ每年十一月十日ニ改定
候條此旨布告候事

明治八年七月十四日

太政大臣三條實美

第百拾七號

本年五月第九拾五號布告改正新舊公債証書發行條例中第四條第壹節
金額內譯合計表差出方每年十月三十一日ヲ每年十一月十日ニ改定
候條此旨布告候事

即前八卷之其十四日

太政大臣三條實美

奉命內閣省官奏請由八月初十日三十一日及神戶十一日十二日三
本以...
...
...

第百拾八號

北海道石狩國札幌郡へ篠路驛ヲ置里程左ノ通候條此旨布告候事

明治八年七月十八日

太政大臣三條實美

札幌石狩ノ間宿驛里程

自札幌
至篠路 三里拾五町

自篠路
至石狩 三里貳拾壹町

第百貳拾號

諸商業又ハ諸職業ニ各應ヨリ用向被申付候者ヨリ差出候受書類ノ中其事柄受負并約定筋ニ相涉リ候モノハ自今證券印稅規則第二則第一條第二類諸證書中諸受負證文及ヒ金錢約定證文ニ照シ證券印紙界紙可相用此旨布告候事

但本文同様ノ受書ニシテ金高記載セサル分ハ同規則中第三類金高記載無之約定證書ニ準シ證券界紙可相用事

明治八年七月二十二日

太政大臣三條實美

第百貳拾壹號

本年^{六月}第百貳號金穀貸借請人証人辨償規則布告本文中施行ノ二字
ヲ削リ且ツ候條ノ下ニ同日以後借用証書へ加印候者ハ改正ノ通可
相心得ノ貳拾貳字ヲ加へ候條此旨布告候事

但右規則第二條ノ節書式文中失踪ノ二字逃亡ト改正候事

明治八年七月廿二日

太政大臣三條實美

第百貳拾貳號

本年二月第貳拾六號布告酒類稅則第一則中左ノ通追加候條此旨布告候事

明治八年七月廿二日

太政大臣三條實美

第六條

一酒造營業免許ノ者自己釀造ノ外他ヨリ買受釀造場ニ於テ賣捌
クトモ更ニ受賣營業稅上納ニ不及事

第七條

一酒造營業免許ノ者一構釀造場ノ外別ニ釀造場ヲ設クル時ハ其

場所毎ニ更ニ酒造營業免許鑑札相受可申事

第八條

一酒造營業免許ノ者醸造場外ニ開店シ右醸造ノ酒類ヲ賣捌ク時
ハ受賣ニ准シ更ニ受賣營業免許鑑札相受可申事

第九條

一酒類受賣營業免許ノ者一箇賣酒店ノ外別ニ賣酒店ヲ設クル時
ハ其店毎ニ更ニ受賣營業免許鑑札相受可申事

第百貳拾三號

米油限月賣買一切差止候旨明治七年^{十二}月^{十二}日第百三拾八號ヲ以テ布告
候後本年^四月^四日第五拾貳號ヲ以テ更ニ當七月三十一日限り取引延期ノ
儀布告候處尙詮議ノ次第有之來ル十一月三十日限り延期セシメ候
條此旨布告候事

明治八年七月二十三日

太政大臣三條實美

第百貳拾四號

本年^六月^六日第百十一號布告新聞紙條例附則中左ノ一條追加候條此旨布告候事

明治八年七月三十日

太政大臣三條實美

新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌雜報ノ類ハ其刷出スル毎ニ東京府
下ハ内務省^局准刻及司法省^課檢務ニ其宅ノ地方ハ内務省^局准刻及府
縣廳ニ二枚^冊ヅ、ヲ納ムヘシ

第百貳拾五號

今般函館在留英國人ブラキストン商社ニ於テ我國内通用ノ証券製
造致シ候趣右ハ我政府ニ於テ許可セシモノニ無之ニ付通用不相成
候條決シテ取引致ス間敷此旨布告候事

但右証券ハ西洋紙ニシテ表面ニ此証券ヲ持參スル時ハ何時ニテ
モ可引換旨并ニ其社名及ヒ拾錢壹圓等ノ文字ヲ日本西洋ノ兩體
ヲ以テ記載シ中央ニ日本船形ノ圖有之裏面ハ番號ノミ有之候事

明治八年八月四日

太政大臣三條實美

明治七年八月八日
太政大臣三條實美
...

第百貳拾六號

明治七年^{七月}第八拾壹號布告證券印稅規則第二則第一條第一類同第

二類諸證書中へ米并ニ雜穀預リノ項左ノ通追加候條此旨布告候事

明治八年八月八日

太政大臣三條實美

第二則第一條第一類諸證書中

一預リ米 ○○證文
○手形

一預リ雜穀 ○○證文
○手形

右ノ證書ハ^{米高五石}以上ハ總テ壹錢ノ印稅^{米高五石}未滿ハ界

紙ヲ用フヘシ

同第二類諸證書中

一預り米

〇〇證文
手形

但使用ヲ爲サ、ル明文無之分

一預り雜穀

〇〇證文
手形

但使用ヲ爲サ、ル明文無之分

第百貳拾七號

福島上等裁判所宮城ニ被移候條此旨布告候事

但管轄ノ儀ハ從前ノ通

明治八年八月十二日

太政大臣三條實美

明治八年八月十二日

太政大臣三浦實美

出管轄ノ類ハ並前ノ如

証書上等様所御宮地ニ懸殊對給此旨市告對準

第百貳拾八號

第百貳拾八號

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限り候
ハ勿論ニ候處地方ニ寄り間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右
ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事
但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニアラ
ス

明治八年八月十四日

太政大臣三浦實美

第百貳拾九號

明治三年八月布告勳種褒賞規則自今廢止候條此旨布告候事

明治八年八月廿日

太政大臣三條實美

第三百拾號

明治七年^三月第三拾九號布告家祿引換公債證書發行條例自今相廢止
候條左ノ貳箇條ノ外諸般ノ手續總テ本年^五月第九拾五號布告新舊公
債證書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

明治八年八月廿四日

太政大臣三條實美

一家祿引換公債證書ノ元金拂渡ハ家祿引換相渡候三箇年目ヨリ七
箇年ノ間ニ政府ノ都合ニ寄り抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ
一年八朱ノ利息ハ年々十一月一日ヨリ十五日迄ニ拂渡スニ付證書
所持人混淆セサル爲メ十月一日ヨリハ證書ノ賣買讓渡等見合各

管廳於テ十月一日証書所持人ノ數ヲ取調其季ノ拂方ニナルヘキ
名面并金高内譯合計表ヲ作り同月十五日迄ニ大藏省ヘ差出スヘ
シ

第三百三拾壹號

明治六年^{三月}第三百二十一號布告金札引換公債証書發行條例中左ノ通
改正候條此旨布告候事

明治八年八月廿四日

太政大臣三條實美

金札引換公債証書發行條例

第五條 第三項

記名利札兩証書共ニ其利息ノ拂方來ル明治九年ヨリハ毎年十二月
一日ヨリ同月十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第六條 第一項

記名利札兩証書共ニ賣買讓渡并質入書入共外國人ヲ除ノ外何人ニ
論ナク所持人ノ勝手タルベシ

第八條 第二項

國債寮ニテ云々六ヶ月間ヲ七ヶ月間ニ改ム

全 第三項

右公布ノ間ハ云々六ヶ月ヲ七ヶ月ニ改ム

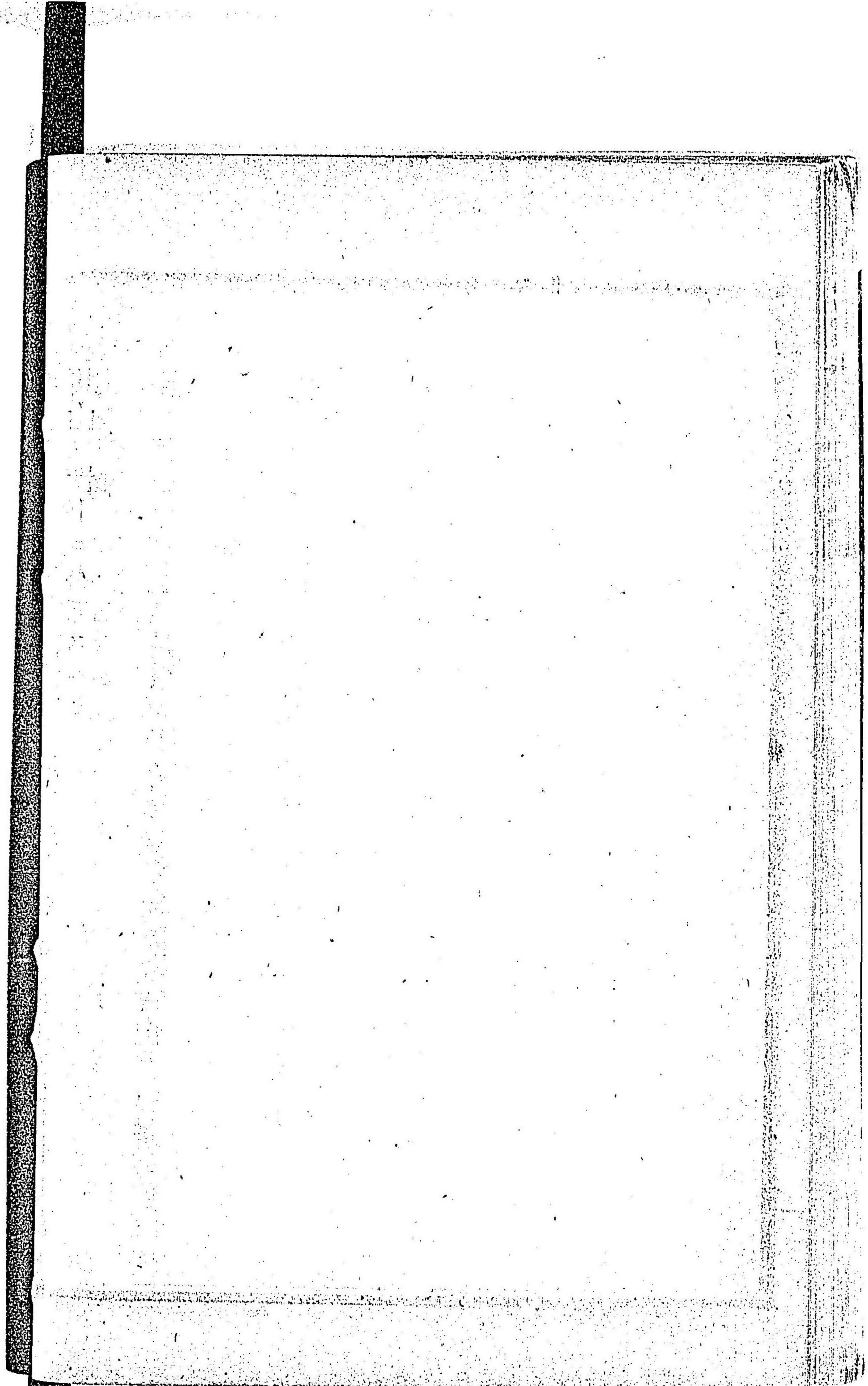
第十條 第一項

何人ニ拘ハラズ公債証書云々其金高十倍以上ヲ十倍以下ニ改ム

第十一條

政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレバ利息及償却年限ヲ除クノ外此
條例ヲ増補シ又ハ之ヲ改正スル事アルベシ尤増補改正等アレバ速

ニ其由ヲ世上ニ公布スヘシ



欠

MISSING

第百三拾三號

府縣市街地等是迄地價百分一收稅致來候處明治六年^{七月}第二百七十
三號布告ノ通地租改正法各管内一般ニ施行候節ハ右改正法ニ準據
シ地價百分三ノ稅ニ改正候條此旨布告候事

明治八年八月廿八日

太政大臣三條實美

明治八年八月三十一日

太政大臣三條實美

酒田縣廳ヲ羽前國田川郡鶴ヶ岡ニ移シ
三條實美
酒田縣廳ヲ羽前國田川郡鶴ヶ岡ニ移シ
三條實美
酒田縣廳ヲ羽前國田川郡鶴ヶ岡ニ移シ
三條實美
酒田縣廳ヲ羽前國田川郡鶴ヶ岡ニ移シ
三條實美

第百三拾四號

酒田縣廳ヲ羽前國田川郡鶴ヶ岡へ移シ鶴ヶ岡縣ト改稱候條此旨布告候事

明治八年八月三十一日

太政大臣三條實美

第三百拾五號

明治五年正月文部省布達出版條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨
布告候事

明治八年九月三日

太政大臣三條實美

出版條例

第一條

圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セシトスル者ハ出版ノ前ニ内務省ヘ届ケ出ヘシ

但シ社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラス

第二條

圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此ノ專賣ノ權ヲ板權ト云フ

但シ板權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ板權ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フヘシ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第三條

出版届版權願トモ草稿ヲ添ルニ及ハスト雖モ時トシテハ草稿ヲ徵シ
検査スルコトアルヘシ

第四條

草稿又ハ納本ヲ検査シテ世治ニ害アル者ト認ムルハ其出版又ハ販
賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀タシムルコトアルヘシ

第五條

出版届版權願トモ其所在ノ地方廳本籍又ハ寄留ノ地方廳ヲ經由スヘシ

但シ著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經
由スヘシ

第六條

圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年ノ延期
ヲ許スコトアルヘシ

第七條

版權免許ノ爲ニ其年限ヲ記セル証書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各
人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條

著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ
版權ヲ與ヘ年限ヲ起算スヘシ

第九條

他人ノ著譯書己ニ版權ヲ有スルモノヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ
示談ノ上連印ノ願書ヲ出スヘシ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原

主ト見做スヘシ

第十條

他人ノ著譯書板權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サルヘカラス其出願ノ手續ハ前條ニ依ルヘシ

第十一條

既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘテ出版スルキハ更ニ願ヒ出ルニ非レハ板權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數ヲ分合シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但シ屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ルヘシ

第十二條

著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得其板權ヲ願フキハ之ヲ與フヘシ

第十三條

板權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フヘシ
但シ板權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ届ケ出ヘシ

第十四條

他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得ヘシ其板權願書若クハ出版屆書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條

板權ヲ得タル者ハ它人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス

但シ論辨若クハ証明スルタメニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條

同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ板權ヲ願フ者二人以上アルキハ共ニ板權ヲ與フヘシ其事情明白ナラサル者ハ事由ヲ検査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十七條

外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリトイヘモ乙者又之ヲ譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確證アルモノ板權ヲ願ヒ出ル時ハ検査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條

著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ妨ケナシトス

但表題ノ上ニ 何某ト記載スヘシ

第十九條

出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布スヘシ

第二十條

圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ムヘシ其版權ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ムヘシ

納本セス及免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス

但シ出版ノ上每部定價ノ印ヲ押スヘシ

第二十一條

出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ主名ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記スヘシ而シテ何年月日出板或ハ何年月日板權免許ト

記シ板主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏名ヲ記セスノ別號ヲ記スルコトヲ得
ス

板權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分板シタルキハ相續人買主及分板
ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條

板權ノ賣買ハ勝手タルヘシ賣買スルキハ雙方連印ノ其由ヲ内務省ヘ
届ケ出ヘシ

第二十三條

板權ヲ分テ讓リ若クハ賣リ同一圖書ヲ各自ニ出板スルコト妨ケナシ之
ヲ分板ト名ク

但シ雙方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ

第二十四條

板權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分板シ及ヒ改板ノ届ケ出サル者ハ
其板權ヲ失フヘシ

第二十五條

願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加フル者ハ其趣
ヲ届出テ更ニ納本スヘシ若シ届出テス又ハ納本セサル者ハ其板權ヲ
失フヘシ

第二十六條

免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出タル上更ニ之ヲ與フヘシ

但シ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第二十七條

小説歌謡ヲ出版スル者亦此ノ條例ニ從フヘシ

第二十八條

雕畫ノ類ハ出版スル毎ニ届ケ出ル「第一條ニ依ルヘシ
但シ板權ヲ與ヘス

出版條例罰則

第一條

内務省へ届ケヌノ圖書ヲ出版シ及ヒ板權免許ヲ得ヌノ免許ノ名ヲ冒
ス者若クハ納本セス及免許料ヲ出サヌノ發賣スル者ハ其刻板印本及
賣得金ヲ沒收ス

第二條

凡ソ偽板ヲ作り或ハ書中ノ字句及繪圖ノ模様ヲ少變シ若クハ少加メ
其表題ヲ改メ其他總テ它人ノ板權ヲ侵メ出版スル者ハ罰金二十圓以
上三百圓以下ヲ科シ其刻板印本及賣得金ハ沒收シテ板主ニ給付ス

第三條

第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タル「ヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金

五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及賣得金ヲ沒收シテ板主ニ給付ス

第四條

無名若クハ板主ノ住所ヲ記サ、ルノ圖書ヲ出板シ若クハ發賣スル者并ニ變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出板シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス

但シ沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條

凡ソ著譯ノ圖書譏謗律及新聞紙條例第十二條以下ヲ犯ス者ハ著譯者其罪ニ坐ス

但シ著譯者ハ首ヲ以テ論シ出版者ハ從ヲ以テ論ス

第六條

淫褻俗ヲ亂ルノ圖書小説歌謠彫畫ノ類淫褻ニ係ル者ハ皆同シヲ著譯シテ出板スル者ハ禁獄三十日以上一年以下罰金三圓以上百圓以下ヲ科ス

第七條

法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及現存ノ印本ヲ勾收セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス

活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若クハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第八條

既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ渉ル者ハ仍ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

附則

一此條例發行ノ日ヨリ出版ニ關スル從前ノ布告布達等一切取消シ候
條從前出版ノ圖書ハ此條例發行ノ日ヨリ四個月ヲ限リ此條例ニ準
據シ更ニ願出ツヘク右限内願出サルモノハ總テ版權無之儀ト心得
ヘシ

一從前出版ノ圖書ト雖モ版權願出ルニ於テハ免許料上納スヘシ

但シ製本ハ納ルニ及ハス

一自今院省使廳府縣ニ於テ出版スルモノト雖モ布告公文及該廳ニ關
スル日誌規則ノ類ヲ除クノ外ハ必ス内務省ヘ届ケ出ツヘシ

出版届書式

用紙美濃紙

出版御届

一書名

何冊大繪圖ナレハ大小寸法

何年何月出版

右ハ何私誰先人誰 著譯何々ノ事ヲ記載翻譯ナレハ私以下何年何論述ニ代ニ下文ヲ用フ

國何氏著何ト題シ何々ノ事ヲ記載セル原書ヲ私何誰先人誰 翻

譯致シ一切條例ニ背キ候儀無之候間今度出版致度他人ノ著
レハ今度示談ノ上何誰出版致度此段御届申上候也

何年月日

何府

何縣

何族籍

誰印

住年所

同上

何誰印

他人ノ著譯書ヲ出

著者

同

版スルニ於テハ

出版人

同上

何誰印

同

内務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事
某印

版權願書式

用紙美濃紙

版權願書

一書名

何册大
小

何年何月出版

右ハ私人誰著何々ノ事ヲ記載〔何年何國何氏著何ト題
シ何々ノ事ヲ記載セル原書ヲ私人誰翻譯〕致シ一切條
例ニ背キ候儀無之候間今度出版致度猶版權免許奉願候
也

何年月日

何府

何族籍

何

誰

印

住年
所齡

內務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事
縣令 某印

宅人ノ著譯書ヲ出版セル版權願書式

用紙美濃紙

版權願書

一書名

何册
小大

右ハ何誰著、、、、一切條例

ニ背キ候儀無之候間今度示談ノ上何誰出版致度猶何誰
版權免許奉願候也

何年月日

何府

何族籍

著者

何

誰

印

住年
所齡

同上

出版人

何

誰

印

同同

內務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事
縣令 某印

他人ノ著譯ヲ續成シタル出版届書若クハ板權願書式

用紙美濃紙

一書名

何冊大
小

右前編ハ何府何誰著何年月日版權免許ヲ受候處右何
前何冊ハ何縣何誰著何年月日版權免許ヲ受候處右何
誰故障アリテ後編成功ノ目途ナキニ因リ何誰後編
全編成功ノ目途ナキニ因リ何誰後編
續著致シ今度雙方示談濟ノ上何誰出版致度猶版權免許
奉願候也

何年月日

何府
縣

何族籍

前編 板主 〔死後ナレハ相續人ノ名ヲ以テス〕 誰 印

年 齡
住 所

同上

後編 著 者 何 誰 印

全 全

内務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事 某印

他人著譯ノ書ヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタル版權願書式

用紙美濃紙

一書名

原何冊 〔大〕
新加何冊 〔小〕

右本書何誰著譯何年月日版權免許ヲ受ケ何誰所持候處此度何誰校訂〔節畧註解附録繪圖〕ヲ加ヘ〔何冊ト相成〕雙方示談濟ノ上何誰出版致度猶版權免許奉願候也

何年月日

何府 何縣

本書板主（死後ナレバ相續人） 何 誰 印

何族籍

年 齡
住 所

同上

校訂者 何 誰 印
繪圖者 同 同
附錄者 同 同

内務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事
縣令 某印

版權賣買授受届書式

用紙美濃紙

何々御届

一何誰著
譯書名

何册大
小

右ノ版權ハ何年月日免許ニテ是迄何誰所持候處此度示
談ノ上何誰へ賣渡
讓渡致候ニ付（版主死去相續ハ何月何日同人
受繼ッ者ハ何月何日同人
死去私儀版權相續致候ニ付（此段御届申上候也

何年月日

何府
縣 本人死後ナレバ相續
人ノ三字ヲ肩書ス

何族籍

賣主（或ハ授主） 何 誰 印

年 齡
住 所

同上

買主（或ハ受主）

何

誰

印

〔版主死後ノ相續人ナレハ
獨リ相續人ノ名ヲ以テス〕

全 全

内務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事
縣令 某印

甲既ニ成譯ノ出版セル圖書ヲ乙又譯シ出版スル放權願書式
用紙美濃紙

一書名

何册
大 小

何年何月出版

右ハ既ニ何某成譯出版有之候得共私儀今度新譯シ前譯
ノ誤謬ヲ正シ〔或ハ闕漏ヲ補ヒ又ハ其〕且一切條例ニ背
キ候儀無之候間御檢査ノ上出版致度猶版權免許奉願候
也

何年月日

何府

何族籍

何

誰

印

住年
所齡

內務卿某殿

前書ノ通相違無之候也

何年月日

何府知事
縣令 某印

版權免許証書式

局長印

第何號

版權免許之證

書名

何冊

何誰

著○
譯ノ
者ノ
主任
印

何府
何族籍

何誰

住年
所齡

右者明治何年何月何日ヨリ、何年何月何日
マテ三十年ノ間版權免許候也

明治何年月日

內務卿姓名

版權免
許之印

第三百三十六號

名東縣分割香川縣再置讚岐國一圓管轄被 仰付候條此旨布告候事

明治八年九月五日

太政大臣三條實美

第三百三十七號

改定律例第貳百九拾壹條刪除候條此旨布告候事

明治八年九月五日

太政大臣三條實美

明治八年九月七日
太政大臣三條實美

第百三拾八號

華士族平民家祿賞典祿共本年ヨリ米額ノ稱呼ヲ廢シ每地方ノ貢納石代相場明治五年ヨリ七年マテ三ヶ年ノ平均ヲ以テ金祿ニ改定支給候條此旨布告候事

但支給ノ方法順序等ノ儀ハ道テ可相達事

明治八年九月七日
太政大臣三條實美

第三百三十九號

明治八年日本帝國郵便規則第三百三十三條外國郵便稅表別表ノ通改
正本月十日ヨリ施行候條此旨布告候事

明治八年九月八日

太政大臣三條實美

現今賦金ト稱シ收入スル諸税及本年^{二月}第貳拾三號布告地方收税ノ類ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ云
但賦課ノ方法及費用ノ目途ハ地方官ニ於テ取調大藏省ノ許可ヲ得テ施行スルモノトス

第百四拾壹號

驛遞寮及開港地郵便局ヨリ廣告スル外國へ發航ノ郵便船ヲ以テ送致スヘキ郵便物ハ其廣告セル時限迄ニ屹度差出スヘシ若シ其時限後ニ至リテモ猶達シ得ヘキノ時間アレハ之ヲ其局ニ受取ト雖モ定税ノ壹倍ヲ納メシムヘク此旨布告候事

明治八年九月二十日

太政大臣三條實美

第百四拾貳號

内外史被廢更ニ官等左ノ通被置候條此旨布告候事

明治八年九月二十二日

太政大臣三條實美

大史

三等相當

權大史

四等相當

少史

五等相當

權少史

六等相當

大主詔以下官名等級從前ノ通被置候事

第四百四拾四號

使府縣

官國幣社經費定額金ノ儀明治七年^{九月}第九拾壹號ヲ以テ布告候ニ付
テハ從前朱黑印除地半租同六年マテ給與候向ハ同年中ノ經費ハ右
ヲ以テ仕拂殘金有之候ハ、大藏省へ還納可致此旨官國幣社へ布告
スヘキ事

明治八年八月二十日

太政大臣三條實美

第四百拾四號

今般御國內西洋形蒸氣帆前船共普通信號貫用可致ニ付テハ船各信號符字附點ノ儀并萬國船舶信號書及信號旗共海軍省ニ於テ可頒布候條右船舶官有私有共別冊萬國船舶信號法告諭第三條ニ照準シ其船證書相副同省へ可申出此旨布告候事

明治八年九月二十四日

太政大臣三條實美

萬國船舶信號法告諭

第一條

一海上ニ於テ用フル普通信號ノ方法ヲ設定スルノ緊要タルハ歐米ノ諸海國之レヲ論シ既ニ英國政府ニ於テ「インテルナショナル、コード、シクナル」ヲ選定シ以テ刊行シタリ是ニ於テ佛蘭西米利堅噠國和蘭瑞典魯西亞希臘以太利澳智利日耳曼西班牙葡萄牙巴西ノ如キ諸海國ノ政府ニ於テモ或ハ之レヲ翻譯刊行シ以テ其軍艦商船及ヒ陸上信號場ニ於テ專ラ之レヲ用ヒシム因テ今 我國海軍省ニ於テモ之レヲ翻譯セシメ萬國船舶信號書ト題シ刊行シ以テ軍艦及ヒ西洋形ノ官船商船及ヒ燈臺ノ如キ信號場ニ於テ互ニ通信應答ヲ爲ス

一 般ノ法トス故ニ此信號書ヲ備フルニ於テハ以後「マルエツト」氏著述ノ信號書ヲ備フルヲ要セス

第二條

一 此信號法ハ素ヨリ艦船ノ保護及ヒ互ノ通信便利ノ爲メニ設定セル者タルヲ以テ右諸海國一般ニ之レヲ用フルカ故ニ西洋形ノ船舶ヲ有スル諸省使府縣及ヒ船主ハ篤ク其意ヲ體シ其船舶ニ此信號書及ヒ信號旗ヲ備ヘ其船長及ヒ士官ヲシテ此用方ヲ習熟セシメ又以後船長及ヒ士官ヲ選舉スル時ハ此者之レヲ了解シタルヤ否ヲ詳細ニ檢査スヘシ抑此信號書ノ欠ク可カラサルコトハ既ニ外國ノ或ル信號場ニ於テ海上航行ノ船暗礁ニ觸レントスルヲ看出シタルニ因リ直ニ其場ノ士官萬國船舶信號旗ヲ掲ケ以テ其危險ノ事ヲ通知シタレ

凡 其船此信號ヲ了解ス可キ書ヲ有セサリシヲ以テ之レニ注意セス遂ニ危難ニ罹リ破船沈没シタルノ例往々許多有リ豈ニ鑑戒ト爲サ、ル可カラスヤ

第三條

船名信號符字願書ノ法

一 今般海軍省ニ於テ船名ヲ指示スル爲メニ必要ナル信號符字ヲ授與セシム故ニ其信號符字ヲ請求スル者ハ官船ニ於テハ其所轄廳ヨリ左ニ掲載セル甲ノ書式ニ其船證書ヲ附シテ海軍省ニ出ス可ク商船ニ於テハ其船主ヨリ乙ノ書式ニ其船證書ヲ附シ所轄廳ヲ經テ海軍省へ願出可シ然ル時ハ海軍省ニ於テ其信號符字ヲ其船證書ノ表ニ記入シ授與ス可シ

甲ノ請求書式

當省〔或ハ使府縣〕所轄ノ瀛船〔或ハ帆船〕何丸信號符字點附有之度別紙船證書相副此段及進達候也

明治 年 月 日

省使府縣長官印

海軍卿 某 殿

乙ノ願書書式

私所有ノ瀛船〔或ハ帆船〕何丸信號符字點附被下度別紙船證書相副此段奉願候也

明治 年 月 日

使府縣管下何大區何小區何町村何番地
華士族平民

何 某 印

海軍卿 某 殿

前書之通願出候間此段申副候也

使府縣長官印

第四條

萬國船舶信號場燈臺之レヲ管掌ス

一前條ノ如ク 我國信號場ニ於テモ唯萬國船舶信號法而已ヲ用フル
トトス然レハ此場ヲ通過スル内外ノ諸船舶此信號法ヲ以テ其船名
ヲ指示スル時ハ之レヲ新聞中船舶報告ト題セル部ニ記載シ刊行シ
以テ普ク世上ニ報告ス可シ又船主ヨリ其航行セル船ニ急用ノ消息
等ヲ送ラントスル時ハ其船名或ハ信號字ニ附シテ其要件ヲ記シ之
レヲ電信或ハ郵便ヲ以テ地方ノ信號場ニ送ル可シ然ル時ハ其信號

場ニ於テ其船ヲ認メ次第此信號法ヲ以テ之レニ通知シ而シテ其船ヨ
リ其應答ヲ要スル時ハ之レヲ船主ニ報ス可キトス

第五條

船名錄

一此船名錄ハ萬國船舶信號書ノ附録ニシテ艦船ニ授與セル信號符字
ト艦名トヲ記載シ以テ陸上信號場及ヒ軍艦官船商船ノ船長ヲシテ
其相遇フ所ノ艦船ニ信號ヲ爲シ及ヒ自己ノ船名ヲ通知スルノ便ニ
供スル者トス

第六條

一海軍省ニテ前月此信號符字ヲ授與セル船舶ノ名號ハ後月ニ至リテ
之レヲ集メ新聞紙中船舶報告ノ部ニ記載シ以テ世ニ公布シ諸船長

ヲシテ其船名及ヒ信號符字ヲ知ラシムルニ供シ又毎年其前年中ノ
分ヲ編集シ船名錄増補ト號シテ發行ス可シ

第七條

信號旗及ヒ信號書

一萬國船舶信號旗及ヒ信號書ハ海軍省ニ於テ完備ノ者ヲ下附セシム
ルカ故ニ船主或ハ船長必ス之レカ購求ヲ願出ツ可シ

旗ノ寸方		旒ノ寸方	
小ハ	豎四尺六寸 <small>フイト イシチ</small>	橫六尺	豎三尺 橫十一尺
中ハ	同五尺	同七尺	同四尺 同十三尺
大ハ	同六尺	同八尺	同五尺 同十五尺

但シ「マリエット」氏ノ萬國海上信號旗一式ヲ有スル船ニ於テハ其旗ノ中ヲ以テ多分此信號ノ用ニ充テ得可ク唯 m q v w ノ旗ト信號示旒トノ五旗ヲ新調スルニ於テハ其便用ヲ得可シ

第八條

海上士官ヲ望ム者ヲ檢査スルノ個條

一 檢査ノ要目左ノ如シ

第一 此信號法ノ各綱領ヲ了解シ得ルヤノ事

第二 旗信號距離信號及ヒ端舟信號ヲ容易且敏捷ニ爲シ及ヒ應答シ得可キヤノ事

第三 電信局信號器ヲ以テ信號ヲ爲シ得可キヤノ事

一 檢査トハ檢査官ノ有スル信號書及ヒ其離形ノ旗ヲ以テ士官タラシ

コヲ望ム者ヲシテ實地ノ施行ヲ爲サシメ試檢スル事ナリ

第九條

信號法

一 萬國船舶信號ニ用フル旗ハ十八個ト信號示號即チ回答旒一個トナ

リ

燕尾旗 一個

旒 四個

方旗 十三個

一 此十八旗ハトヨリW迄ノ子韻符ニ代用ス而シテ此旗二個或ハ三個或ハ四個ヲ聯結シ掲クル時ハ諸語句或ハ文章ノ意ヲ表スル者トス

一此旗旒ノ種類ハ左ノ如シ

燕尾旗

b 紅ノ燕尾

旒

e 白地ニ紅丸

d 藍地ニ白丸

f 紅地ニ白丸

g 黃ト藍(豎)

方旗

h 白ト紅(豎)

j 藍ト白ト藍(豎)

k 黃ト藍(豎)

l 藍ト黃(四個ノ石邊)

m 藍地ニ白ノ斜十字

n 藍ト白(十六個ノ石邊)

p 藍地ニ白方

q 黃

r 紅地ニ黃ノ正角十字

s 白地ニ藍方

t 紅ト白ト藍(豎)

v 白地ニ紅ノ斜十字

w 外郭藍中郭白心紅方

信號示旒即チ回答旒 紅ト白ト豎條ダテシマ

一此信號書ハ b c ヨリ始メテ f g m d ニ至ル迄旗ノ聯結ノ順次ヲ逐書シタルナリ故ニ信號ヲ爲サントスル其意思ノ文ヲ索メントニハ此順次ニ就テ見ル可シ

第一編

① 信號ニテ爲シ得可キ諸般ノ通信及ヒ尋問ノ爲メニ緊要ナル語句及ヒ文章

② 地理信號及ヒ數表但シ是レハ現今未タ譯成ニ至ラス

第二編

① 第一編ノ信號ノ類語集ニシテ第一編中ニ在ラサルモノハ伊呂波ノ順次ノ四旗信號ニテ増補セリ而シテ之レヲ前後ノ

二部ニ分ツ即チ前部ハ原文ノ縱譯後部ハ我伊呂波ノ順次ヲ逐テ其事ノ種類ヲ區別シテ編集セル者ナリ

② 信號ヲ爲サントスル時ハ必ス此第二編ノ後部ニ就テ爲ス可シ然モ此二部其譯成編集共ニ未タ完備セサレハ假ニ伊呂波順次ノ看出目錄ヲ末附シ以テ第二編ノ代用ニ供ス故ニ此目錄ニ就テ第一編中ヲ索ム可キナリ

第三編

端丹信號距離信號電信局信號器信號及ヒ佛國葡萄牙及ヒ以太利ノ電信局信號器信號場及ヒ信號場ノ名錄ヲ記載セリ但シ佛國葡萄牙以太利ノ電信局信號器信號場等ノ名錄ハ現今未タ譯成ニ至ラス

第四編

衝突豫防規則、暴風雨豫報信號、溺者救法、立弗布立リッブルブールノ水路信號等ヲ記載セリ、但シ立弗布立リッブルブールノ水路信號ハ未タ譯成ニ至ラス

第五編

軍艦及ヒ船舶ノ名ヲ報知スル信號符字ヲ有スル者ノ船舶名錄集ナリ

一 萬國船舶信號法ノ最モ稱揚ス可キ所ハ其簡易輕便ナルト區別分明ナルトニ在リ

第十條

信號方法シカメ

一 此萬國船舶信號書ヲ以テ信號ヲ爲サント欲スル時ハ其以前ニ「ガ」ニ上ケル國旗ノ下ニ必ス信號示旒ヲ掲ケ置ク可シ

一 信號示旒或ハe旒或ハd旒ヲ唯一個用フル時ハ左ノ意ヲ表ス

○ 信號示旒ハ回答旒ナリ

○ e旒ハ 然リ

○ d旒ハ 否

一 右信號ヲ除クノ外總テノ信號ハ二旗或ハ三旗或ハ四旗ヲ以テ爲ス可ク而シテ信號ノ種類ハ最上ノ旗ヲ以テ之レヲ識別セシム

○ 二旗信號

○ 燕尾最上ナルハ注意信號キヤフタ

○ 旒最上ナルハ方位信號

- 方旗最上ナルハ緊急及ヒ危険信號
- 三旗信號
- 尋問通信經緯度及ヒ月日時等ノ如キ信號
- 四旗信號
- 燕尾最上ナルハ地理信號
- c d 或ハf 旒ノ最上ナルハ綴字及ヒ語信號
- g 旒最上ナルハ軍艦ノ名
- 方旗最上ナルハ官船商船ノ名

明治八年三月

日本海軍艦名錄

此信號ヲ上クル時ハ必ス國旗ノ下ニ信號示旒ヲ掲ク可シ

sgbc	龍驤 Ri-oo-jo.	二	sgbi	鳳翔 Hou-shiyou.	四
sgbd	東 Azu-ma.	三	sgbm	第一丁卯 Dai-iti Tai-bou.	四
sgbf	筑波 Tsu-kuba.	一一	sgbn	富士山 Fuji-yama.	
sgbh	日進 Nits-sin.	七	sgbp	乾行 Ken-kou.	
sgbj	春日 Kas-ga.	七	sgbr	孟春 Mou-shun.	四
sgbk	雲揚 Woon-you.	四	sgbs	第二丁卯 Dai-ni Tai-bou.	四

信號符字	艦名	砲數	信號符字	艦名	砲數
sgbt	千代田形 <i>Chiyodagata.</i>	三	sgdc		
gqbv	大坂 <i>Osaka.</i>		sgdf		
sqbw	快風 <i>Quifoo.</i>		sgdh		
sqcb	肇敏 <i>Chow-min.</i>		sgdj		
sqcd	蒼龍 <i>Sō-ryū.</i>		sgdk		
sqcf	攝津 <i>Se-ts.</i>		sgdl		
sqch	高雄 <i>Taka-o.</i>		sgdm		
sqej	淺間 <i>Asa-ma.</i>		sgdn		

sgck	函容 <i>Kan-you.</i>		sgdp		
sgcl			sgdr		
sgcm			sgds		
sgcn			sgdt		
sgcp			sgdv		
sgcr			sgdw		
sgcs			sgfb		
sgct			sgfc		
sgcv			sgfd		

h b d m	h b d l	h b d k	h b d j	h b d g	h b d f	h b d e	h b e w	h b e v
								o

h b e t	h b e s	h b e r	h b e q	h b e p	h b e n	h b e m	h b e l	信號符字
								船名
								官籍番號
								所屬地
								船主
								噸數
								馬力

h b f p	h b f n	h b f m	h b f l	h b f k	h b f j	h b f g	h b f d	h b f e

h b d w	h b d v	h b d t	h b d s	h b d r	h b d q	h b d p	h b d n	信號符字
								船名
								官籍番號
								所屬地
								船主
								噸數
								馬力

h b g r	h b g q	h b g p	h b g n	h b g m	h b g l	h b g k	h b g j	h b g f

h b g d	h b g e	h b f w	h b f v	h b f t	h b f s	h b f r	h b f q	信號符字
								船名
								官籍番號
								所屬地
								船主
								噸數
								馬力

信號符字	船名	官籍 番號	所屬地	船名	噸數	馬力
h b j d						
h b j e						
h b g w						
h b g v						
h b g t						
h b g s						

第四百四拾五號

陸軍武官表別紙ノ通改定候條此旨布告候事

明治八年九月二十四日

太政大臣三條實美

第四百四十六號

僧尼ト相成度者出願及ヒ免許方ノ儀ニ付明治四年六月十九日布告
并同十月十二日達トモ相廢シ候條自今出願ニ及ハス其時々管轄廳
へ可届出此旨布告候事

明治八年九月廿五日

太政大臣三條實美

第百四拾八號

明治八年九月三十日

田二等察事

内務省中圖書寮藏書部對新刊書市治對事

第百四拾八號

第百四拾八號

諸建物書入質規則并ニ賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條來ル十二月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

明治八年九月三十日

太政大臣三條實美

建物書入質規則

第一條

金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返済スヘキ証據トシテ預_貸ケ主ニ對シ引當
ト爲ス所ノ建物ノ圖面ト証文トニ戸長ノ公証ヲ受ケタル者ヲ預_貸ケ主
ニ渡シ置キタルヲ建物ノ書入質ト云フ

第二條

書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルキハ書入質証文ニ自身
持地ノ建物ナルヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ルキハ書入質ヲ爲
スモノ其地主ニ請ヒ其地主ヲシテ貸地タルヲ証スルノ奥書ヲ爲
サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ奥書ナキ証文ハ書入質ノ
效ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ

第三條

金穀ノ預借主ヨリ建物引當ノ証文ト建物ノ圖面トヲ建物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ奥書割印ヲ受クルコトヲ公証ヲ受クルト云フ

第四條

建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲ス可シ第一號書式及ヒ第二號書式ヲ見合スヘシ

第五條

戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書

シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書割印ス可シ

第六條

建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル証文ニテ前條ノ規則ニ背キ公証ヲ受ケサル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做ス可シ

第七條

此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニハ必ラス返済ノ期限ヲ定ム可シ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做ス可シ

第八條

此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用金穀又ハ預リ
 金穀ニテ返濟期限ノ定メナキ証文ヲ所持スル者ハ明治九年二月廿
 八日迄ニ金穀^{預主}又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ
 証文ニ改^{借主}可シ若シ^{預主}又ハ其相續人証文ヲ改メサルキハ明治九
 年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ
 但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住
 所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離每八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

第九條

此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用証文又ハ
 預リ証文ヲ所有スル者ハ返濟滿期ニ至ルト至ラサルトニ論ナク明
 治九年二月廿八日迄ニ金穀^{預主}又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從

ヒタル書入質ノ証文ニ改ムヘシ若シ^{預主}又ハ其相續人証文ヲ改
 メサルキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判
 所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十條

建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取タル日
 ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル
 報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニ
 ハ何^府管^下何^{住居}某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書
 入質ト爲ス証文ニ公証スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其
 訴訟落着ニ至リシ時ハ公証ノ差留ヲ解クコトヲ速ニ戸長ニ報知スヘ

第十一條

第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用証文ヲ所有スル者ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ

第十二條

一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スコトハ嚴禁ナレモ若シ第一番ノ金主ヘ書入質ト爲シタルコトヲ第二番ノ金主承諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ又其建物ヲ書入質ニ借添ト爲スコトヲ得ヘシ尤借主身代限ノ處分ニ至ルキハ右建物羅賣ノ代金ヲ以テ第壹番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第

三番以下右ニ準シ引渡スヘク若シ羅賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品羅賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ

但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ証文ニハ建物代價ノ餘分ヲ見込ミ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三條

書入質ト爲シタル建物焼失流亡等ニ至リシ時ハ建物ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ

以テ點合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ趣ヲ畧記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ 第三號書式ヲ見合スヘシ

第十四條

書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシキハ貸主ヨリ借主ニ對シ代リ質ヲ受取ルコノ求メヲ爲スコトヲ得ヘシ若シ借主代リ質ヲ出スコトヲ肯ハス又ハ出シ能ハサルキハ借用金穀返濟期限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

建物賣買讓渡規則

第一條

自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲ爲サント欲スル者ハ 賣渡讓渡 証文ト圖面トニ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ又借地ニ建

テ在ル建物ノ 賣渡讓渡 証文ニハ其地主ニ請ヒ其地主ヨリ貸地タルコトヲ証スルノ與書ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ

第二條

建物ノ買受又ハ讓受ヲ爲サント欲スル者ハ自身又ハ其代人建物ノ在ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見合シタル上其 賣渡讓渡 証文ヲ受取リ然シテ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長ノ面前ニテ何大區何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ 買受讓受 タル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日并ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ若シ此手續ヲ爲サルキハ建物 買受讓受 ノ效ナキニ付建物ノ代價ヲ受取リタル旨ヲ記シタル建物賣渡証文ハ金銀借用証文ト看做スヘシ 第四號書式ヲ見合スヘシ

第三條

戸長役場ニ於テ建物賣渡讓渡証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ是亦建物書入質記載帳ニ記入スルヲ及ヒ証文ニ奥書シ圖面ニ割印スルヲ建物書入質規則第五條ニ準シ公証ヲ與ルノ手續キヲ爲スヘシ

第四條

書入質ト成リタル建物ヲ買受買受タル者ハ其建物ノ書入質トナリタル金數ノ償却ヲ引受クヘシ但シ買受買受人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スル時ハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及ハス

第五條

第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸主ヨリ讓受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受ク可

シ